

# オリゼメート<sup>®</sup>粒剤

プロベナゾール..... 8.0%  
 鉱物質微粉等..... 92.0%

農林水産省登録 第 13243 号

毒性 普通物 有効年限 4年 包装 3kg × 8袋、10kg × 1袋

## ●特長

1. 世界初の植物防御機構活性化剤(Plant Defence Activator)です。植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を示す、ユニークな作用性をもつ殺菌剤です。
2. いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・穂枯れに優れた効果を発揮します。
3. きゅうり・レタス・キャベツ・ブロッコリー・はくさい・ねぎ等の細菌性病害に有効です。
4. 効果の持続性に優れ、強い効果が長く続きます。

## ●適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	3kg/10a	移植時	1回	側条施用	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
	白葉枯病 もみ枯細菌病	3~4kg/10a	葉いもちには 初発の10日前~初発時 穂いもちには 出穂3~4週間前 収穫14日前まで	2回 以内	散布	
	穂枯れ (ごま葉枯病菌)		移植活着後及び 出穂3~4週間前 収穫14日前まで			
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり20~30g	移植3日前~ 移植前日	1回	育苗箱の 苗の上から 均一に散布する	

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
きゅうり	斑点細菌病	6~7.5kg/10a (5g/株)	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
レタス 非結球レタス	腐敗病 斑点細菌病	6~9kg/10a			土壌混和	
キャベツ	黒腐病				全面土壌混和又は 作条土壌混和	
ひろしまな はくさい	軟腐病				全面土壌混和	
ピーマン とうがらし類	斑点病 うどんこ病	5~10g/株			定植時	
ブロッコリー	黒腐病	6~9kg/10a	全面土壌混和			
カリフラワー	軟腐病					
わけぎ	軟腐病	6kg/10a	生育期 収穫35日前まで	1回	株元散布	1回
あさつき		6~9kg/10a	土寄せ時 収穫30日前まで			
ねぎ		6kg/10a		2回以内		2回以内

(平成28年7月6日現在の登録内容)

## ●効果・薬害等の注意

### [育苗箱施用の場合]

- 苗の上から均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落したのち十分灌水する。
- 苗の葉がぬれている状態では使用しない(薬害)。
- 健苗に使用し、軟弱徒長苗、むれ苗などには使用しない(薬害)。
- 本田の代かきをていねいに行い、処理苗移植後田面が露出しないようにする(薬害)。
- 本田移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、苗が活着するまで田面が露出しないようにする(薬害)。
- 本田が砂質土壌、漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用しない(効果・薬害)。
- 移植後低温が続く、活着遅延が予測される時の使用はさける(薬害)。
- 所定の使用時期、使用方法を守る(生育初期の葉の黄化、生育遅延)。

### [本田施用の場合]

- 湛水状態(湛水深3～5cm)でまきむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間はそのまま湛水状態を保ち、田面露出・水切れをさげ(葉害)、また散布後7日間は落水、かけ流しをしない。
- 砂質土壌、漏水田、未熟有機物多用田では使用しない(効果・葉害)。
- 予防的散布が有効で、葉いもちでは初発の7～10日前、穂いもちでは出穂の3～4週間前、白葉枯病では移植活着後(移植後7～10日)なるべく早く、出穂以降の白葉枯病、もみ枯細菌病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)では出穂3～4週間前が使用適期である。
- 側条施用をする場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用する。

### [きゅうり、ピーマンに使用する場合] (葉害)

- 健苗に使用し、幼苗、軟弱徒長苗には使用しない。
- 植穴の土壌と十分混和する。
- 葉緑の黄化(退色)、葉のわい化、活着遅延にともなう初期生育抑制等の葉害を生ずるおそれがある。

### [レタスに使用する場合] (葉害)

- 使用方法を誤ると葉が黄化したり、生育が遅延することがある。

### [野菜類の細菌病、特にはくさいの軟腐病の防除に使用する場合] (効果)

- 軟腐病が多発するおそれがある場合は、所定範囲の高薬量を用いる。

### [ねぎに使用する場合]

- 土寄せ2日前～直前、所定量の薬剤を株元散布した後土寄せを行う。
- 有効年月内に使用する。
- 特に初めて使用の場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。